

イエス・キリストのからだは、ただ一度だけ献げられたことにより、私たちは聖なるものとされています。（ヘブル人への手紙10章10節）

イエスの十字架が与えるもの

ようやく朝晩涼しくなってきましたが、いかがお過ごしでしょうか。

さて、10月といえば「読書の秋」「スポーツの秋」「食欲の秋」といった言葉が思い浮かびます。実りと活動にふさわしい季節ですね。実は、ユダヤの社会でも10月は特別な時期とされており、その中でも「大贖罪日（ヨム・キプール）」という大切な祭りが 있습니다。これは、断食と祈りをもって自分と民の罪を神に告白する日であり、古代イスラエルでは大祭司が犠牲の動物を献げ、人々の罪の赦しを神に祈り求めました。人が神と和解するための最も神聖な日とされていたのです。

では聖書は、この「大贖罪日」をどのように示しているのでしょうか。新約聖書には、「イエス・キリストのからだは、ただ一度だけ献げられたことにより、私たちは聖なるものとされています。」と記されています。ここから、イエスの十字架が私たちに与えるものを3つに分けて考えてみましょう。

① イエスはご自分を献げられた

イエスは2千年前、歴史の中に実在した人物であり、そのイエスが十字架で命を献げられました。その死は、単なる歴史の出来事ではなく、“誰か”のためのものでした。



② それは“私たち”のためだった

聖書は、「私たちは聖なるものとされている」と語ります。つまり、イエスの十字架は“私たち”のためのものでした。

ユダヤ人にとって人間は罪ある存在で、聖なる神に近づけない者とされていました。

その罪は、現代の私たちにも共通しています。ニュースに出てくる犯罪だけでなく、「神を無視して自分中心に生きる」という生き方自体が罪だと聖書は語ります。その罪のために本来なら神に近づけない私たちが、イエスの十字架を信じる時、神に赦され、聖なるものとされるのです。

③ それは一度きりで完全なもの

古代イスラエルでは、罪の赦しのためにいけにえが繰り返し献げられてきました。しかし、イエスの十字架は「ただ一度」で十分でした。イエスこそ真のいけにえであり、私たちを罪から解放し、神との平和を与えてくださるお方だからです。この十字架は、今を生きる私たちにとっても有効であり、信じる者には希望が与えられます。

イエスは、私たちの罪のためにご自身の命を献げてくださいました。神の子であるイエスが、人としての弱さも苦しみも引き受けて死んでくださったのです。その神のご愛に、あなたも耳を傾けて、心を開いて応答してみませんか。（M）